

【平成 23 年度・後期学期・ミクロ経済学 I・課題 4】

☆ 締め切り：平成 23 年 12 月 20 日講義開始時

☆ 指定された表紙をダウンロードして利用してください。

【問 1】 次の(1)～(4)の場合について、グラフを描き、需要側と供給側のどちらに価格設定能力があるか 3 行程度で説明しなさい。また、(5)に答えなさい。

- (1) 需要が完全に価格非弾力的で、供給が中程度に価格弾力的である場合。
- (2) 供給が完全に価格非弾力的で、需要が中程度に価格弾力的である場合。
- (3) 需要が完全に価格弾力的で、供給が中程度に価格弾力的である場合。
- (4) 供給が完全に価格弾力的で、需要が中程度に価格弾力的である場合。
- (5) ある財の市場において、需要は右下がり均衡点の近傍では価格弾力性が $-0.8$ であり、供給は右上がり均衡点の近傍では価格弾力性は $+0.5$ である。この均衡周りでは需要側と供給側のどちらにより価格設定能力があるといえるか？理由をつけて説明しなさい。

【問 2】 次のようにある財への需要と供給が与えられている場合について(A)～(C)に答えなさい。

$$\text{需要: } Q_d = 7 - 0.8P$$

$$\text{供給: } Q_s = -2 + P$$

- (A) この市場の需要および供給直線をグラフに作図し、均衡価格および均衡数量を求めなさい。
- (B) いま、供給線が  $Q_s = -7.4 + P$  にシフトしたとき、新しい均衡価格均衡数量を求め、(A)における均衡との間において、価格弾力性をもとめなさい。この価格弾力性から、需要は価格弾力的か非弾力的か判定しなさい。
- (C) 今、(A)の状態の市場に、上限規制価格  $\bar{P} = 6$  が施行されたとすると、この市場にどの程度、超過供給もしくは超過需要が存在するか示しなさい。(図を描き直して示すこと)
- (D) (C)の状況における消費者余剰と生産者余剰を計算しなさい。

(平成 21 年度・中間試験より)